

安心・安全
住み続けたいまち
暮らし

知ら咲か



2018 NOVEMBER NO.66

(編集発行)「知らせましょ・咲かせましょ」事務局・広報(住所)宝塚市逆瀬台 URL <http://www.shirasaka8.net/>
連絡先 「知ら咲か」ホームページの“問い合わせ”をご利用下さい。



みんなのまちをみんなで 住み続けたいまちを住みやすく

☆高齢者が元気なまち

当地域のパークマンションとシャンティを除いた逆瀬台1丁目の本年3月現在の高齢化率は44.6%です。14歳以下の年少人口率は6.3%と全国で抱えている傾向の少し前を走っています。

しかし、要介護・要支援認定率は市内比較ではそう高くはありません。すなわち健康寿命が長く、「元気な高齢者がいっぱいいるまち」と言えます。

全国的な就労年齢でも60歳後半の方が当たり前に働いている時代ですから、地域でも70歳台はもとより80歳台も健康活躍期なのでしょう。



☆自然とともに

マンションの周囲に公園や緑地、裏山など豊かな自然があふれ、身体や心をなごませてくれています。

今、アンケートを行うと「この自然を大切にしたい」という声が多いと予想しています。

現在、都市部にお勤めの方も休日には自然を眺めたり、その中に飛び込んでいたりして鋭気を養っているのではないのでしょうか。

従って、将来のまちにも「自然」は大事な要素として残されるでしょう。

☆坂道をどうカバー？

恵まれた「自然」の裏返しとして「急な坂道問題」が常に横たわっています。若い内は簡単に克服できることも、加齢と共に高いハードルとなってくるのは避けられません。

常に身体をケアして少しでも衰えを遅らせることも大事でしょう。(例えば百歳体操)

介助があれば歩けるといいう方に付き添ってあげるのも方法です。同様に荷物を持つてあげるなどもあります。又、車での同行や送迎なども解決方法です。これは知り合い作りでの方法です。

☆居場所作り、知り合い作り

この地区には管理組合、自治会、ふれあいサロン、各種サークル、同好会、見守り助け合い組織等、たくさんの方の集まりがあります。

一人では「住み続けたい」と思っているにも限界があるのは確かです。それを実現するためには「一人のつながり」を築くことが第一歩の作業となります。

趣味のグループでもふれあいサロンでも、顔見知りを増やすには最適な場所です。

さらには、高齢者ばかりのつながり、ママ友ばかりのつながり、子どもだけのつながり、お父さんだけのつながりだけでなく、あらゆる世代がつながることがまちの仕組みを作っていく上では大事になります。

エイジフレンドリーシティ宝塚行動計画の中で「めざすもの」として「お互いさま」がふれるまちづくりを掲げています。

単に、見守る人と見守られる人、助ける人と助けられる人という関係ではなく、そこに住む誰もが、自分でできることを通じてみんなが安心・安全に住み続けることができる「地域づくり」や「支え合い」を育みたいとしています。

さあ、みなさんはどうしますか？何をしますか？

住み続けたいを引き寄せる
「まちを考える」各種イベント会合

市やゆずり葉コミュニティ、白瀬川ブロックではいろいろな分野の「まちづくり」に関する会議やセミナーが開催されています。普段、一人では得られない情報や考えるヒントも多くあります。

これらを遠い存在と考えるより、自分はその構成員ということで「オーナー」の立場で接すれば結構、楽しいこと間違いなしでしょう。

ここで最近開催された関連行事を簡単に紹介します。一つはエイジフレンドリーシティ宝塚講演会で市民が主役となり、市民のやりたいことをうまく行政がサポートできることで、みんなが住みやすいまちになるという事例を学びました。二つ目がコミュニティの地域福祉ネットワーク会議です。地域市民団体・ボランティア・福祉事業者・行政・学校・コンサルが広い分野で、まちづくり計画の見直しを行いました。三つ目は10月14日の白瀬川ブロックの「見守り担当者会」です。こちらは話し合いながら情報共有と課題を探りました。どれも一般参加OKです。

10月14日エイジフレンドリー宝塚講演会 市民主役のまちづくりを学びました



10月7日ゆずり葉コミュニティ地域福祉ネットワーク会議 まちづくり計画の見直し検討



10月14日 白瀬川ブロック「第2回 見守り担当者会」マンションごとの名簿作成現状共有と課題検討



逆瀬川マンションふれあいサロン マリンバ演奏会開催



きんもくせいの香りがた
だよう、秋の日、当マリン
ションの「ふれあいサロン」で、
マリンバの演奏会が催され
ました。
毎週火曜日に実施してい
る「百歳体操」を終えた後、
集会室内を演奏会用に模様
替えをして、ティートお菓子
を頂きながらの、ほっこりと
したひと時でした。
演奏して下さったのは、マ
リンバは、住民の清水洋子さ



ん、ピアノはお友達の浅岡愛
子さんのお二人です。
オーブニングは、「イン
ザムード」という聞きなれ
た曲でしたが、たちまち、森
の中に引き込まれるような
マリンバの響きに、メロメロ
になりました。
そのあと、「ティコティ
コ」、「金比羅船船」、「八木
節」、「荒城の月」などなど、
10曲、演奏されました。



面白かったのは、色々なパ
ーカッションの楽器を用意さ
れていて、海辺の波音を参加
者が曲に合わせて出してみた
り、手拍子で演奏に参加して
みたり、変わった楽器が曲を
盛り上げていきました。
また、各曲の前に、曲にま
つわる解説をユーモアを交え
てお話しされ、好奇心をくす
ぐられながら、じつくりと演
奏を味わい、最後は「見上げ
てごらん夜の星を」をみんな
で気持ちよく歌いあげまし
た。



マリンバの魅力に引きつけ
られ、休憩の時は、バチ？を
持つて、音を立てて、感触を
楽しみました。
お二人は「デュオ ポコリ
ット」というデュオを組まれ、
音楽療法として、色々な施設
や、集会などで、ボランティア
活動に取り組んでおられま
す。
楽器の組み立てや、移動な
ど大変な作業ですが、お二人
のご厚意に甘えて、是非、ま
た演奏会を開きたいと思っ
ています。



逆瀬川グリーンハイツ 関西学院グリークラブを迎えて

今年 9 回目を迎える定例行事がグリーンハイツであるというので聴きに行ってみました。ネットでも検索してみると関西学院大学の学生により構成され 1989 年設立の日本最古の男声合唱団と紹介されています。

オリックス元会長宮内義彦、富士ゼロックス元代表取締役社長（現相談役）宮原明、日清製粉グループ代表取締役社長村上平一を始め、経済界にも多くの人材を輩出していて、関西学院グリークラブは現在 80 数名が在籍しているクラブだそうです。今回は 16 名と指揮者 1 名の構成で来場され歌唱されました。

グリーンハイツへ初めてお招きした際、尽力された方がこの夏他界されたことが伝えられ、黙祷がささげられました。

演奏曲目リスト	
＜第一ステージ＞	＜第二ステージ＞
Old Kwansei	Sound Celebration
空の翼	Tonight Tonight
鉄道き甲山	Somewhere
新月旗のもとに	ルパン三世のテーマ
High Barbary	上を向いてあるこう
Rolling Home	サライ
Ride the Charlot	遙かなる旅に
最上川舟歌	宙船

休憩時カルテット演奏

歌唱は第 1 部、第 2 部構成で休憩時間に 2 年生の 4 名で構成されたカルテットの歌唱が用意されていました。

第 1 部は主に関西学院の校歌 3 編と応援歌他 4 曲。第 2 部はサウンド・オブ・ミュージックやなじみのある日本の曲など計 8 曲。印象として今回は 16 名の歌唱でしたがフルメンバーだとかかなりの迫力だろうという感じで普段聞くことないジャンルなので十分楽しめました。そして何より学生である初々しさが懐かしく、自分もそう思う時代があったのだなあと思いつ出した次第です。



休憩時間の 4 名のカルテット歌唱に選ばれたのがジ

ブリの挿入歌が数曲。世代を感じました。私はアニメを見る年代ではありませんが現在インバウンドを支える外国からの旅行者が日本にきたかった理由に必ず上げる「アニメを見て興味を持った」と、アニメの影響力恐ろしや。

アンコールは、故・坂本九さんの「見上げてごらん夜の星」。私の好きな曲でした。



関学グリークラブ全国へ

第 73 回関西合唱コンクールの大学職場一般部門が十月七日に東リいたみホールで行われ、審査の結果、金賞受賞団体の中から大学ユース合唱の部で、関西学院グリークラブが関西支部代表に選ばれ、全国大会に出場することになりました。十一月二十四日札幌で行われる全国大会に出場することになりました。



落語みゆーじあむ

池田落語みゆーじあむ（池田市立上方落語資料館）：編集部 2017 年撮影

グリーンサロン寄席 10月14日(日) グリーンハイツ自治会

ご存じの落語です。グリーンハイツで、開催されました。今回で、390回目の公演でした。桂文枝さんが、池田市で池田ミュージアムを創られ、落語を広げたいという強い思いがあり、今回も3人の人が来て下さいました。

落語は、古典落語と新作落語があり、(あほ役)と(かしこ役)とで、かけ合つて作りあげられ、その物語が面白くてとても私達を楽しませてくれます。今回も涙が出るほど面白く一人目は、鶴亀亭梅の丞さんの「道具屋」という新作。(あほ役)と(かしこ役)の掛け合いがおもしろかったです。二人目は、女性の方で天神亭お鶴さん、元々折り紙を教えていた人で、落

語を聞きにいった時、やりたいと思ひ、文枝さんをお願いして「ぜんざい公社」という出し物で本当に涙が出る程、面白かったです。一杯のぜんざいを食べるのに色々な手続きをしていくという話です。三人目は、池田家ぼん彩さんの「花色木綿」で泥棒が貧乏な人の家に入り何も取るものが無くて何とも言えない語りで盛り上げていく話です。長机を、3本並べその上に赤い毛氈を敷きそこに座布団をおいた上に、座るので、大変そうで、その仕草が、また、面白かったです。楽しませて下さって、有難うございました。

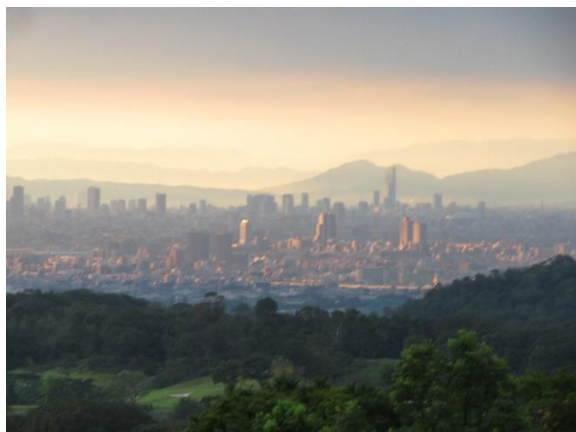
グリーンサロン寄席
日時：10月14日(日)
13:30開演(開場13:00)
入場料：無料
<演者・演目>
 第1席 鶴亀亭 梅の丞 「道具屋」
 第2席 天神亭 お鶴 「ぜんざい公社」
 第3席 池田家 ぼん彩 「花色木綿」
場所：管理棟2階集会室



逆瀬川グリーンハイツ自治会

ミニ寄稿 夕日に映えるハルカス

阿倍野ハルカスは時々、赤く輝く時があります。ハルカスの壁面やガラス窓に夕日が反射して赤く燃えているようになります。その姿は、建物の高さと共に見栄えのする素晴らしき姿です。下は朝の大阪方面の景色です。柔らかい朝日に映し出された姿とは違う雄々しさを感じます。この姿が見られるのはそう長くない時間です。夕方のハルカスを時々注目してください。



パークマンション自治会 秋の行事紹介『朗読会』



10月に入り、長かった猛暑も去り、異常な台風も一段落、読書の秋、食欲の秋etcの良き季節になりました。パークマンション自治会では、「午後のふれあいサロン・ひまわり」との共催で朗読会を開催いたしました。

「午後のふれあいサロン・ひまわり」では、昨年11月『朗読会』を開催、好評だったので今年も『午後のふれあいサロン・ひまわり』の共催を得て、自治会主催で開催となりました。

朗読者は、昨年同様パークマンション居住の「徳永一栄」さんです。徳永さんは、別名「TOKUZ（トク）さ



ん」として大阪の西天満地域福祉センターを拠点に活動されている「きやら朗読グループ」の一員で、毎週土曜日に参加されているそうです。

当マンションでは、ご高齢の両親と共に暮らしていらっしゃると思います。日頃はエレベータ等で、よく出会い、あいさつを交わすのですがこのような得意芸の持ち主とは全く知りませんでした。

自己紹介、そして家庭でのご両親との毎日の暮らしぶりを紹介。

次いで花びら模様の「はんてん」を着用し、朗読士に変身！



いよいよ朗読の始まりです！

お題目は予告通り『嫁取り二代記』です。

山本周五郎 昭和12年作の「こつけいもの」とのこと。

時代は江戸時代、参勤交代盛んなころ、国家老で頑固一徹の叔父 勘兵衛とその甥直次郎 との 嫁取りをめぐるお話！

直次郎が嫁にしたい娘 お笛が 遊女と聞いて 叔父 勘兵衛は激怒 激怒！

そこから 物語は 始まりました。

直次郎はお笛を勘兵衛に託して参勤交代でお江戸へ向かいます！

勘兵衛とお笛との暮らしが始まりますが、次第にお笛の手柄に気持ちが変わりいき



最終的には 直次郎とお笛の結婚は叔父に認められるのです・・・！！

実は、頑固一徹の勘兵衛さん自身も 同じような『嫁取り』を辿っていたという「こつけい」な お話でした。

このような「朗読の会」は全く初めてだったので、興味深く、楽しく、拝聴いたしました。

最初の内はそれ程でもなかったのですが、語りに従って段々と吸い込まれていく語りに応じて場面場面が目に見えてくる、その場面に自分が入っているような心地よい気分になってきました。

本を読んでいると直ぐに眠気を催すものですが、その様なことは一切起こりませんでした。



会場からは拍手喝采！

その後 参加者全員で、お茶とお菓子の 茶話会で雑談を楽しみました。

(寄稿 o t)

白瀬の自然

紅葉・モミジ

毎年、晩秋を感じさせてくれる紅葉です。
 こうよう（紅葉）、もみじ（黄葉、紅葉）は落葉広葉樹が落ち葉の前に葉の色が変わる現象を指しています。
 でも、紅葉の 때가 指すように葉っぱが赤く変色することだけを「こうよう」と呼ぶことも多いようです。

従って、この地域でも裏山や六甲の山が黄色く覆われるのも「こうよう」と呼ぶことができます。

今回の写真は「モミジ」です。



これも「モミジ」とか「カエデ」とか呼ぶ場合があります。どう区別すればいいのでしょうか？何か違いがあるのでしょうか？
 実はどちらも植物分類上はカエデ科カエデ属に属し分類上は同じです。葉の見た目で見分けがされます。カーク臣が深いカエデを「〇〇〇モミジ」、葉の切れ込みが浅いカエデを「〇〇〇カエデ」と呼びます。例えば「イロハモミジ」、「ハウチワカエデ」のように呼ばれています。



手元の植物図鑑で調べてみました。
 「イロハカエデ（モミジ、タカオモミジ）」、「ヤマモミジ」、「チリメンカエデ」、「ハウチワカエデ」、「イタヤカエデ」、「エンコウカエデ」、「トウカエデ」、「アメリカハナノキ（ベニカエデ）」がカエデ属かえで科に載っていました。

今回の写真はゆずり葉緑地公園のイロハモミジ（上）と盤滝トンネルを抜ければそう時間がかからないうちに行ける紅葉スポット、有馬温泉の瑞宝寺公園での写真です。

皆さんは何処のスポットへ紅葉狩りに行かれますか？

【編集後記】

「この地域でいつまでも住み続けたい」と多くの方からお聞きします。「出来ることなら最期まで・・・」とも。
 それだけ他の地域にはない色々な魅力があるのでしようか？

反面、「体力的にこの坂を上り下りするのしんどい！」といお声もあります。「車は手放したのだけど、買い物では苦労しているのよ」という方も。
 人それぞれに、思考の仕方が異なります。マイナス面を上げていくのと地域の宝物、すなわち良いところを上げるのどちらが大変でしょう。

魅力のある町には「宝物」がたっぷりあるのでないでしょうか？マイナス面を潰していく方法とプラス面をさらに伸ばしていく方法とはどちらがよいとは言い切れないでしょう。

この地域の魅力を探し、あるいは作り上げていく取り組みを始めて行きませんか？
 色々な方々の手で作っていき、素晴らしい町になるでしょう。

(S)